



北風と太陽

校長 岩元 輝美



吹く風に暖かさを感じる頃となりました。正門の花が咲き、卒業式用の花苗も蕾をもっています。青々した草木に囲まれると、元気と勇気が湧いてきます。植物の力強い生命力に感化され、心が奮い立つのでしょうか。

この時期になると、「童話『北風と太陽』の太陽のような先生になってください。」という言葉思い出します。この言葉は、私が教育実習中、指導を担当して下さった先生からいただいたもので、大切にしている言葉です。

ご存知の通り、イソップ童話の『北風と太陽』は、力比べをしている北風と太陽が、旅人のコートを脱がせる勝負で決着をつけようとするお話です。北風は、旅人に風をびゅうびゅう吹きつけて、コートを吹き飛ばそうとしますが、吹けば吹くほど旅人は、コートを強く押さえて脱ごうとしません。かたや太陽は、旅人をぽかぽかと照らし、体が暖かくなった旅人は、自らコートを脱ぎました。



このお話から、物事の進め方や人とのかかわり方について、様々な教訓を得ることができます。

教育に当てはめて考えると（学校教育においても、家庭教育においても）、「頭ごなしに指図をすると、かたくなに心を閉ざしてしまう。思わずそうしたくなるように、環境を整えることが大切」と言うことができるのではないのでしょうか。人は皆、よりよく成長したいという思いや願いをもっています。その思いや願いを無視され、一方的にあれこれ決められると、かえってやる気をなくし、場合によっては反抗的になってしまうのは、誰でも思い当たるふしがあることでしょう。一方、思わずそうしたくなるように環境を整えるというのも、なかなか難しいことです。特に、共同生活を送っている学校においては（もちろん家庭生活においても）、一人一人異なる性格に応じようとする、あちらを立てればこちらが立たぬといった状態になりかねません。上手に折り合いを付けていかねばなりません。

そこで、私たち大人が心がけたいのは、子供の「向上したい」「挑戦したい」という欲求に対して、見守り、そっと環境を整えることではないのでしょうか。もちろん、健康・安全を脅かすこと、モラルに反することについては、毅然とした姿を見せることは必要です。少なくとも先回りしすぎてその邪魔をしないようにすることです。風薫るさわやかな気候のように、頑張ろうとする気持ちをあたたかく受け止め、そっと背中を押し、包み込むように見守ることで、子供たちは、思い思いに成長の芽を伸ばしていくように思います。



本年度もあと1か月余りとなってきました。引き続き、学校と家庭がベクトルを揃え「未来に挑む子供の育成」に取り組んでまいりましょう。お力添えのほどよろしく願いいたします。